

がなかった頃に未開人のとった方法には感心させられました。

そろばんの特徴については、

①十進位取り法がハード的に明確。

②6以上「5といくつ」

数の認識上わかり易い。

③ホワイトボックスである。

④十進法を原理とする内容なら、四則計算以外にも使える。

(上垣先生は、正負の数の計算規則を理解するためのそろばんを作られ、現在は、分数計算のできるものを考えておられるようです。)

⑤集中力の養成・精神の統一。

(他でも可能であるが、計算力を身に付けつつ集中力も養える。正に「二兎を追って二兎を得る」に他ならない。)

「数の理解、計算のしくみ、応用などについての理解が、学校そろばんとして必要とされる場所である。」と締めくくられ、講座が終了しました。

この七講座以外でも、班ごとに話し合うために与えられたテーマから、珠算人として、教育する立場の者としてあるべき姿と自分を照らし合わせる事ができました。

そして、「多忙中、授業のやり練りは？」という質問に理事長が、「大変ではあっても、誰かがやらなければ成り立たない。」と答えられたのは印象的でした。

この講習の日程表が送られてからは、あまりの過密さに見ては溜息をつく毎日でしたが、始まってみれば、あつという間の充実した時間でした。「一人も欠けず終了されたのは、今

回が初めてです。」という澤田先生の言葉に、込み上げるものがありました。幼稚で拙い文章が、何を伝えられるのかわかりませんが、このレポートを書き上げるまでが私の「人材育成講習

会」でした。

「あ・た・ま」が自分を変えてくれると信じています。

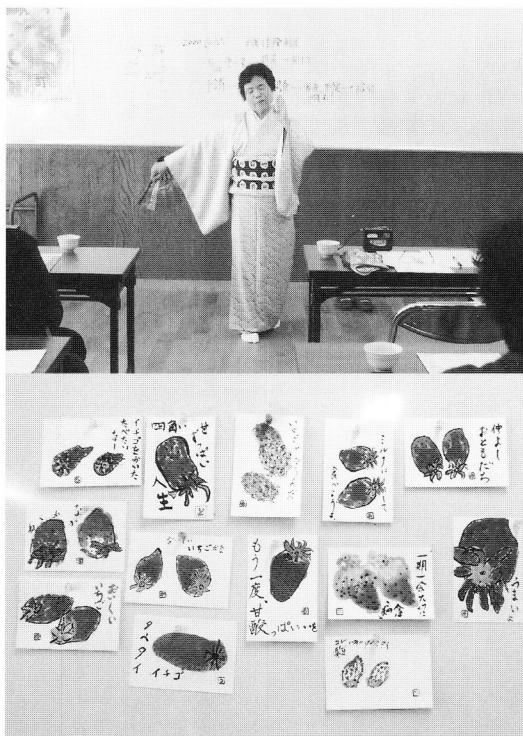
ありがとうございました。

# 「浜松地区研修会」

浜松地区 淡佐ユリ子

平成二十四年二月二十六日、浜松市の浅田自治会館で二十三年度浜松地区研修会が行われました。午前の部は元浜松十字の園介護長加藤はる様の「歳をとるということ」長年十字の園で寮母職として勤め、定年後は佛教大学社会福祉学部通信課程に入学、卒業後社

会福祉士取得、今年七十三才になられる今、地域のお年寄りを対象に劇団「おはるちゃん」を創設、メンバーと共に施設や公民館で公演したり、日本舞踊を習ったり、台所でレンジの待ち時間でスクワット、バス停の待ち時間で片足立ちして足の筋力が衰えて歩けなくなる事や、骨折、寝たきりとなるのを防ぐ加藤様の生き方そのものが認知症を予防する生き方と思いついた。又浜松早期認知症研究所金子満雄先生の早期認知症自己診断の事も紹介していた



はもの忘れでは

なく、意欲の減退、積極性、機転の低下に要注意。それまで元気だった人がいつの間にか覇気をなくし「何もしたくない。」「どこにも行きたくない。」「誰にも会いたくない。」「心が萎えてくるのがボケの兆候だそうです。若い頃から仕事一筋、趣味なく、生き甲斐なく交友も少ないという生活。すなわち認知症とは生活習慣病、〇〇がつく程真面目すぎる人が危ないそうです。「認知症は家族の病気である。」と言うお話しに驚きました。親を認知症にさせたくなければ、週末に孫を連れて遊びに行き、ゲームをしたり、歌ったり、おしゃべりしたり、笑ったり、そういう環境が大切なようです。午後の講座は「絵手紙」でした。講師は浜松市和合町にお住まいの鈴木栄重先生です。先生は全国的にも早い時期に絵手紙を始められ、中日文化センターや至る所で講座を開いており、又そのお弟子さんが今や講師となられているという先生でした。とても大らかな性格で誉め上手みんな誉められ、のせられ、楽しい教室となりました。「子供でも、大人でも、誰でも誉められて悪い気はしない。その人の良い所を見つけて誉めるんだよ。」と言われる言葉は、そっくりそのまま私達の仕事に通用するものと思えました。ボードに作品を貼って見ると、皆中々のものでした。「へたがいい。」「へたでいい。」「言う言葉に、何を書いても許される安心感は、一円間違っても×と言う世界とは違う大らかさがありました。いつもとは違う世界を楽しんだ研修会でした。